

# 京都大学の教育システム

自らの将来を見据え、  
自分の学ぶ道を作り上げていくために。

## 柔軟な教育システム

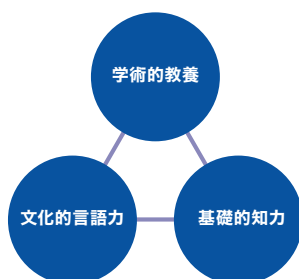
京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な特徴があります。入学者は、10の学部のいずれかの学部にも所属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。また、同じ学部にも属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいます。これはもともと個人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できる柔軟な教育システムを備えています。ここでは、京都大学が提供する学部から大学院までの教育の特徴を説明します。

## 教養・共通教育

どの学部に入学した場合も、まず教養・共通科目を受講することになります。教養・共通科目は、全学共通科目ともよばれ、京都大学の全学部の学生が共通して受講する科目群をさします。教養・共通教育は、専門の勉強を始める前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く人類の英知や学問の脈絡を学ぶものです。京都大学での教養・共通教育の目的は、大きく三つに分けられます。

第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向



き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢を学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問を通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉(言語)で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを表現し、他者に伝える方法を学ぶことです。この場合の言語の学習とは、自国語の高度な運用能力に加えて、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解し、協調関係を築きあげようとする姿勢が重要です。学部時代に短い期間であっても、海外へ留学することは貴重な経験となります。京都大学では、英語による教養・共通科目提供や言語の自習環境の整備を積極的に進め、留学を後押ししています。また、教養・共通教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、みなさんが社会や学術

研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけでなく、見通しのつかない複雑な状況において、適切に課題を定式化して解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養・共通教育の3つの目的、すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養は学術的教養、文化的言語力、基礎的知力と名づけることができます。ただし、教養・共通科目を履修すれば、これらを自動的に獲得できるわけではありません。京都大学の提供する教養・共通科目は、多様な構成となっています。専門教育といってもよいほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や他分野との関連に重きをおいた科目もあります。また、少人数セミナーでは、研究室やフィールドに出かけて、最先端の知の現場に触れてもらい、将来の研究への意欲を育んでもらいます。いずれにせよ、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求め学問の現場に参加していく態度を身につけることが要求されます。





すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。

### 学部での専門教育

教養・共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める前期課程の履修を修了後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けるところもあります。学部の教育課程を修めたと思なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づき決定されています。

専門教育の課程に進んだからといって、教養・共通教育と無縁になるわけではありません。京都大学の教養・共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できるようになっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いています。

学部によって異なりますが、専門教育では学科やコースなど、学部よりさらに専門化した組織に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部でも、卒業前には、各学部での学部の総決算とでもいうべき課題が課せられます。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本冊子の各学部のページを参照してください。

### 大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位(修士号、博士号)の取得をめざして大学院に進学する場合があります。

京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

まず修士課程では、学部よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的技術をもつ実務家養成のための専門職大学院の課程があります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業生、勤務経験のある社会人も入学してくるので、学部時代よりも学生の年齢層やキャリアが多様となるでしょう。また、留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。大学院では、自分でテーマを発見し、学んでいくことが重要となります。良い答えを見つけることだけでなく、良い問いを発することも重要です。修士課程修了時には、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験が総仕上げとなります。修士課程を修了した後、研究者や高度な専門家を目指し、博士課程にまで進学すれば、京都大学の充実した研究環境の恩恵を最大限受けることができるでしょう。そこでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程在籍時には、国際会議での発表や学術雑誌への論文の執筆などが本格化し、一人前の研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に応募し、自らの研究計画を世に問う場面も出てきます。このような研究の成果にもとづいて、博士論文を執筆し審査に合格すると、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。なお、2012年度からは時代の要請に応えるため、専門性と幅広い視野を併せ持ち、社会の広い分野で活躍できるリーダーの養成を目的とした、5年一貫の博士課程教育リーディングプログラムを提供しています。

京都大学の  
教養・共通教育を担う

# 「全学共通科目」

「自由の学風」を尊重しつつ、  
真に学生の力を発揮できる教養・共通教育を提供するために。

## 教養・共通教育の実施体制と特徴

京都大学では、2013年4月に設置した国際高等教育院という組織が教養・共通教育を実施するとともに、教養・共通教育全体の企画及び運営を総括しています。実施にあたっては、各学部の行う学部教育と併せて、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識及び方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通じて豊かな人間性を育むことを目的とし、教育課程を編成しています。

この教養・共通教育は、主として全学共通科目によって担われています。全学共通科目は、各学部の枠を越えて、原則として全学部の学生を対象として開講されていますが、平成28年度からは、以下の8つの群に再編成されます。

### 人文・社会科学系科目群

人文・社会科学系科目群は、以下の6つの系列に区分され、開講されます。

- 哲学・思想系
- 歴史・文明系：日本、東洋、西洋、文明の4分野
- 芸術・言語文化系：芸術、文学、言語の3分野
- 行動科学系：教育、心理、社会の3分野
- 地域・文化系：人類、地理、環境構成、地域研究の4分野
- 社会科学系：法律、政治、経済の3分野

### 自然・応用科学系科目群

自然・応用科学系科目群には、数学、統計、物理学、化学、生物学、地学を主な内容とした科目や、これらにまたがる応用的な科目等が多様に開講されています。

これらの中では、主に専門教育の一般的基礎となる科目や、全学生に共通の教養的な内容の科目があります。

### 外国語科目群

全学共通科目として開講している外国語科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語(外国人留学生用)の10言語があります。外国語教育においては、学術的素養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の向上にも努めています。また、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語ではコンピュータを用いて自律的に学習できるよう、CALLというシステムを導入している授業もあります。



### 統合科学系科目群

統合科学系科目群は、後期に開講を予定している科目で、人類社会の持続的発展と深く関わる主題を取り上げ、文系、理系双方の教員を交えた対話型授業を通して、共時的にも通時的にも多面的な視点からの対象の考察法を習得することを旨とします。考察する主題として以下のものを設けます。

- 生命と社会：先端生命科学と人の生活
- 生命と社会：自然と人の関わり
- 環境とエネルギー
- 総合自然災害科学

### 情報系科目群

情報系科目群は、以下の3つの系を中心に編成されます。

- コンピュータ・リテラシーや情報リテラシーを習得させる情報利活用科目
- 情報科学や情報技術の基礎的な概念等を学ぶ情報科学科目
- 高度情報化社会の課題について考察する情報社会科目

### 健康・スポーツ系科目群

健康・スポーツ系科目群は、健康科学系科目とスポーツ実習科目から編成されます。

### 大学生活・キャリア支援科目群

大学生活・キャリア支援科目群は、以下の4つの系から編成されます。

- 大学生活支援科目
- キャリア支援科目
- 国際交流科目
- 地域交流・貢献科目

### 少数教育科目群

少数教育科目群はILASセミナーとして開講される科目からなります。ILASセミナーは新入生を主たる対象とし、各学部・研究科・研究所・センター等の教員が5~25人程度の少数のセミナー形式で、様々なテーマの授業を行うものです。

テーマは、医療、言語教育、東洋史、日本古典、



学部科目(専門科目)

学部科目(専門科目)は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。

学部科目 (専門科目)				
ILASセミナー				
全学 共通科目				
	1年	2年	3年	4年

**[全学共通科目について]**

詳細は、京都大学国際高等教育院のHPをご覧ください。  
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

**[ILASセミナーについて]**

各部署の特色あるILASセミナーの内容を、12ページから16ページに紹介しています。また、以下のHPにも、一部の科目ですが、内容を掲載しています。

**京都大学国際高等教育院  
ILASセミナーの紹介**

<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/freshman-guide/pokezemi>

政治学、社会学、過疎問題、地震、天文学、文化人類学、豊かさ、エネルギー需給、海洋生物等々、京都大学ならではの豊富なメニューです。

※ILASセミナーは、平成27年度まで少人数教育科目(ポケット・ゼミ)として開講されていたものを拡充し、平成28年度から開講するものです。

英語で学ぶ教養・共通教育

京都大学では、大学改革の一環として、今まで以上に大学の国際化に取り組むこととしています。国際高等教育院においても、これに対応し、英語の授業を充実させるとともに、英語による授業を増加させることで、留学生が英語で授業を受けることのできる環境を整備するとともに、日本人学生に在学中の留学を促す刺激にしたいと考えています。

国際高等教育院における英語での授業は、基本的に、従来日本語で行われていた科目について、日本語に加え英語での授業を追加するものですが、留学支援や教員の専門分野を考慮し、今までは提供されていなかった科目を提供する場合があります。

従前に比べると、高校教育におけるリスニングやスピーキングの訓練は増加していますが、大学入学時点で英語での授業を受講できる能力をもつ学生はごく少数と考えられるため、本学では、学生の英語能力に合わせた形での科目展開を検討しています。

また、英語能力に関して学生の自覚を促すために、TOEFLを受験してもらい、学生が在学中に自らの希望に応じて英語能力を高められるよう国際学術言語教育センター(i-ARRC)を設置してサポートを行うこととしています。

全学共通科目

平成27年度は、全学共通科目として1,212科目を開講しています。  
 内訳は次のとおりです。

人文・社会科学系科目群	327科目
自然・応用科学系科目群	261科目
外国語科目群	177科目
現代社会適応科目群	154科目
拡大科目群	293科目

(平成27年4月1日現在)



# アカデミック・カレンダー

## 重層文化都市「京都」で過ごす京都大学の一年。

平安建都以来1200年の歴史を奏でる古都一京都の中に息づく京都大学は、三方を山に囲まれた京都盆地のうえに主要な3キャンパスが所在しています。京都に残る自然や数多くの文化財は、そこに集まる人々の内的な対話と探求を支え、新しい文化を育んできました。京都大学は地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。ここでは、美しい四季の変化、古都の文化・伝統とともに過ごす京都大学の一年を紹介します。

- 全国七大学総合体育大会開会式(7/4)  
通称七大戦。日本を代表する7つの国立大学が合同で開催している体育大会。前年の12月から9月の閉幕まで多数の競技が行われます。
- 前期試験・フィードバック期間(7/23~8/5)

<div data-bbox="204 875 293 1039" data-label="Text"> <h1>4</h1> <p>April</p> </div>	<div data-bbox="395 824 440 853" data-label="Text"> <p>葵祭</p> </div> <div data-bbox="488 882 561 1039" data-label="Text"> <h1>5</h1> <p>May</p> </div>	<div data-bbox="758 875 842 1039" data-label="Text"> <h1>6</h1> <p>June</p> </div>	<div data-bbox="944 824 1007 853" data-label="Text"> <p>祇園祭</p> </div> <div data-bbox="1031 882 1114 1039" data-label="Text"> <h1>7</h1> <p>July</p> </div>
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

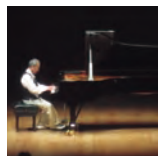
- オリエンテーション
- 紅萌祭(4/2・3・6)  
京都大学応援団主催の新入生歓迎イベント
- 入学式(4/7)
- 健康診断
- 前期授業開始・履修登録



紅萌祭



入学式



音楽会

- 音楽会(6/17)  
創立記念の課外教養行事。毎年著名な音楽家等を招いて開催しています。
- 創立記念日(6/18)

五山送り火

# 8

August

# 9

September

- 夏季休業(8/6~9/30)
- オープンキャンパス(8/6・7・8)



オープンキャンパス



五山送り火

- 前期終了





- 能楽鑑賞会(12/9)  
課外教養行事。  
能及び狂言の鑑賞会。
- 冬季休業(12/27~1/4)



能楽鑑賞会

- 後期試験・  
フィードバック期間  
(1/28~2/10)

12  
December

1  
January

節分祭

2  
February

3  
March

- 後期授業開始・履修登録

時代祭

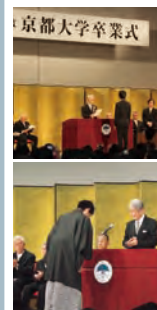
10  
October

11  
November



節分祭

- 卒業式(3/24)
- 後期終了(3/31)



卒業式

- 11月祭前夜祭(11/19)
- 11月祭(11/20~23)  
通称NF。  
最大の学生イベント、大学祭。



11月祭前夜祭



11月祭





# ILASセミナー

1回生からの初めてのゼミ

平成28年度から、ポケット・ゼミはILASセミナーに名称を変更します

## 京都大学ならではの「少人数教育」、 教育の原点である人間と人間の触れあいの機会。

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より少人数教育科目(ポケット・ゼミ)という授業科目を開設しています。

平成28年度からはILASセミナーとして再編し、新入生および科目によっては2回生以上の希望者を対象に、全学の教員が実施する授業です。原則として5~25名程度の少人数単位で実施され、大学とはどういうところか、学問をするとはどういうことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都

大学そのものへの入門」の授業として開催されています。

平成27年度は新入生のみを対象に約200科目が開講され、1,500人以上の学生(全新生の約50%)が受講しています。

この科目は本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少人数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。この章では、平成27年度に開講されたポケット・ゼミの内容の一部を紹介しています。



## ■ 研究所・センター

### きてみてさわって、有機化学が死ぬほど好き

化学研究所  
平竹 潤 教授【専門分野：生物有機化学、有機合成化学、酵素化学】

このゼミは、有機化学が死ぬほど好きな、有機化学がやりたくて京大にやってきたような学生が全学から集まり、徹底的に有機化学を楽しむ、そんなゼミです。

#### きて、みて、さわって、体験的に有機化学を学ぶ

本ゼミの最大の特徴は、実物に触れながら有機化学の理論を体で覚えていくことです。たとえば、ジエチルエーテル(沸点35°C)と1-ブタノール(沸点117°C)。どちらもC<sub>4</sub>H<sub>10</sub>Oという同じ分子式であらわされる化合物(構造異性体)ですが、沸点をはじめとする物性が全く異なります。これを、紙に書かれた文字情報として理解するのではなく、実物に触れ、独特の匂いを嗅ぎながら、手でさわってみることで、沸点の違いを体で理解します。粘性に違いがあることもわかります。この原体験をもとに、この物性の違いを生んでいる要因は何か、それを有機化学の世界ではどのように理解しているのか(答えは水素結合)を学んでいきます。また、化合物の酸性度(pK<sub>a</sub>)を理解する際にも、酸性度の異なる物質(たとえば、NaHCO<sub>3</sub>とHCl)を混ぜてみます。あつという間にCO<sub>2</sub>の泡が出て、酸塩基反応が起こったことがわかります。その後、pK<sub>a</sub>値から化学平衡を計算し、なるほど、と理解します。万事、このようなスタイルで授業が進行していき、体で覚えた知識は生涯忘れることのない深い理解をもたらします。

#### 自学自習を徹底的にサポート

本ゼミの第2の特徴が、自学自習を徹底してサポートすること。学生は、テキストの章末問題を解いて自主レポートとして提出し、それを教員(平竹)が

丁寧に添削し、次週に返却、各自にフィードバックします。レポートは強制ではなく、どんなに間違っただけでも書いてもネガティブには評価しない(加点主義に徹する)ところがミソ。あくまで自主的に勉強し(グループ学習を奨励)、レポートを提出したら、丁寧に、徹底的に添削して返します。このやりとりを何回か続けていると、おのずと自学自習の習慣が身につく、良質の自分の学習スタイルを確立することができます。自学自習は放任ではない、自由の学风は徹底したサポートから生まれる、これが私のポリシーです。

#### 対話を重視、何を言っても加点主義で評価

自分の意見を表明することは、自分の考えをまとめる非常に有効な方法です。また、他人と議論することは、広い考えを取り入れ、理解を深める最適の方法です。本ゼミでは、こうした対話を重視します。とはいえ、いきなり人前で自分の意見を言ったり議論するのは、誰でも苦手なもの。そこで、授業では、どんな意見を言っても絶対にネガティブには評価せず、すべて加点主義で評価します。そのため、安心して自由に意見を言うことができます。また、教員との距離が近く、ものが言いやすいのも、ボケゼミならではのメリットです。何より、死ぬほど好きな有機化学についての意見交換ですから、ハードルもうんと下がります。そうやって、広く有機化学の知識を共有し、理解を深めていきます。



▲反応の進行を薄層クロマトグラフィーで確認しているところ

## ■ 研究所・センター

### オープンエデュケーション入門

高等教育研究開発推進センター  
飯吉 透 教授【専門分野：教育イノベーション、高等教育システム】

#### 「21世紀の知の革命」としてのオープンエデュケーション



世界のどこにしようとしてネット環境さえあれば、無償で提供されるさまざまな講義ビデオや教材から学ぶことを可能にしてくれるオープンエデュケーションは、インターネットが普及しつつある世界で現在進行中の、「学びと教え」を巡る素晴らしいムーブメントです。より良い教育

をより多くの人々に享受してもらうオープンエデュケーションは、いわば「21世紀の知の革命」と言えます。

現在のように社会構造が複雑化・流動化し、日進月歩の技術や知識の陳腐化も激しい世界では、「学校や塾や職場の『壁の内側』で教えられること」だけが学びのすべてではなく、「学校を出たから、もう自分の学びは終わり」というわけにもいきません。そのような「個人が一生涯学び続ける時代」にふさわしい「一人ひとりの無限の可能性のための次世代教育環境」こそが、オープンエデュケーションなのです。

#### 私たちとオープンエデュケーション

ここ半世紀あまりの急激なICT(情報コミュニケーション技術)の進歩は、教育におけるテクノロジーの役割を、「教えるための道具」から「学ぶための道具と環境」へと劇的に転換・拡張してきました。その大きな変化

の中で、「あらかじめ決められたことを、決められた形で教える」だけでなく、「知識の大海原」とも呼べるような「開かれた学習環境」において、個人の興味や関心に応じて、誰もが効果的な教育的ツールを利用しながら、自由に学び教えることが可能になったのです。

オープンエデュケーションの普及によって、学び方や教え方の進化が加速し、私たちは日本にいながらも、世界最先端の知に触れられるようになりました。オープンエデュケーションは、日本ではまだまだ知られておらず普及も始まったばかりですが、これからのグローバルな世界で活躍し、さらに世界の知に貢献できるような人の成長や育成のために、オープンエデュケーションについて知り、関わっていくことは、非常に重要です。

#### このゼミで学ぶこと

本ゼミでは、国内外の様々なオープンエデュケーションの事例や文献、また実際にオープンエデュケーションを体験することを通して、その意義や可能性、将来的課題について幅広く学び考えていきます。さらに、ゼミに参加する学生個々人のこれまでの教育との関わりや経験を振り返りつつ、「大学で学ぶ」ということについて、またこれからの社会や人生における教育の意味や目的を探究していきます。

授業は、インターネットやマルチメディア等を活用しながらグループディスカッション、受講者によるグループ・個人のプレゼンテーションなどを織り交ぜ、インタラクティブにおこなわれます。現在日本や世界において、オープンエデュケーションを最も先鋭的に進めようとしている大学の一つである京都大学で、是非本ゼミを通じて、開かれた自由な学びの楽しさや素晴らしいさを実感してください。





## ■ 総合人間学部

## イギリス小説の愉しみ

人間・環境学研究科

高谷 修教授【専門分野：十八世紀イギリス文学】

## varietas delectat

小説はイギリスにおいて十八世紀に誕生しました。小説とは「かなりの長さを持った、散文で書かれた架空の物語で、市井の人々の活動が写実的に描かれる」と説明すると、一応小説の特徴を捉えたことになるでしょう。文学史的には、書簡体小説である『バメラ』を書いたサミュエル・リチャードソンがイギリス小説の開祖と見做されています。リチャードソン以来、実に沢山の小説家が現れました。彼に遅れること20年にして、ロレンス・スターンという小説家が登場し『トリストラム・シャンディー』という奇妙な小説を書きました。この作品を漱石は「どこが頭か尻尾か分からぬナマコのようなもの」と評しましたが、リチャードソンによって小説が確立してあまり時を経ないうちに、すでにスターンのような、小説をデフォルメするような小説家が現れたことは、実に小説がもつ表現の可能性の大きさを明らかにしているように思われます。以後、男性作家だけでなく、女性作家もこの小説というジャンルに積極的に乗り出し、19世紀は小説の世紀といわれるように、まさに百花繚乱、小説の全盛期を迎えました。テーマや技法についても、実に様々な方法が試みられ、多様な小説が書か



れてきましたが、現在でもこのような多様性(varietas)が多様な読者を愉ませて(delectat)います。このゼミはこのような多種多様なイギリス小説の中から幾つかの作品を取り上げ、それらを味読し愉しむことを目的としています。

## ゼミの進め方

毎回、イギリス小説の中から一作品を取り上げ、さわりの部分を読み、理解し、討論します。受講者には小説のテーマ、プロット、人物描写や、語彙・文体など、異なる視点から分析し報告してもらいます。コピーを配布しますが、著者名と作品名は伏せておき、作品自体をまず自分の感性で読み解くことを行います。なぜそうするかといえば、批評家の言説よりも、まず自分はその作品をどう読むかということを重視したいからです。そして自分の印象や感動を絶えず、他の人の受けた印象や感動とつぎあわせ、厳密に比較、検討し、そのつど作品に立ち戻りながら、修正を加え、作品の深い理解に達することを目指します。最終回にすべての作品の著者名と作品名を公表し「まとめ」を行います。

## 受講生へのメッセージ

我が国の西洋古典学の草分けである田中秀央先生は著作の前書きに *festina lente* と書いておられました。これはラテン語で「ゆっくりと急げ」という意味です。イギリス小説を愉しむためにはそれなりの努力が必要ですが、努力する際に、このようなローマ人の知恵を覚えておくことは悪くはないと考えています。

## ■ 法学部

## 民事紛争解決のプラクティス

法学研究科

佐々木 茂美教授【専門分野：民事裁判実務】

## ゼミナールの概要と目的

人が社会生活を送るとき、色々なトラブルに巻き込まれることを避けることはできません。身の回りを見渡しても、身近な隣人間の揉め事(例えば、土地の境界、塀・通路、排水、日照・通風、騒音・振動といった生活空間を巡るトラブル)や事故(鉄道・道路、学校、職場での災害)など、例を挙げれば枚挙に暇がありません。しかも、近時の情報通信技術の革新や高齢化の急速な進展に伴い、社会・経済が急激に変貌し、個人あるいは企業の権利関係を巡る争い、即ち民事紛争は、量的にも質的にも格段に変化しています。そこで、本ゼミナールでは、まず、我が国に存在する民事紛争解決のためのシステムの基本を理解し、生起する紛争の内容・性質に相応しい仕組みを探り出す試みを行い、次いで、色々な民事紛争事案を素材として、輻輳する事実関係の中から、法的解決に意味のある事実関係を選別し、権利・義務を巡る争いに決着をつける手法・技法の一端を実践してもらいます。

## 法律の仕組みに関する知識と思考能力

私は、約40年間裁判官として過ごしましたが、この間、実に多様な民事紛争に巡り会いました。このような紛争に立ち向かうため、我が国では、現在、その解決方法・手段として、相対交渉による示談、ADR(裁判外紛争解決手続)、調停、訴訟などが用意されています。紛争の適正な解決を目指すには、何よりもこれら解決方法・手段の基本的な枠組み・特質を理解した上で、個別事案に相応しい紛争方法を選び取る作業を欠かすことはできません。また、民事紛争は、その生起した時代背景や地域社会の実情、さらには広く世相一般といったものまでも色濃く反映しています。どのような紛争解決手段を選んでも、紛争の基本的な成り立ちや構造を分析・検討するステージを組上に載せることになりませんが、それには、具体



的な事案の中から法的な問題をえぐり出すための武器としての法律の仕組みに関する基本的な知識を習得する必要があります。法律は、古代ローマの昔から、人々、団体等が直面した紛争を解決するツールとして活用されてきました。このように歴史と英知の詰まった文化財である法律の枠組みを駆使して権利義務を巡るあらゆる課題に挑んでみることにしましょう。

## 少にして学べば則ち壯にして為すこと有り

幕末の藩校や私塾では、士農工商という身分を離れて学ぶ者たちが車座になって行う「会読」と呼ばれる自由な討論が広まっており、これが明治維新の原動力となる有為な人材の輩出につながったといえます。古今東西を問わず、何よりも自由闊達な議論が人材の育成にとって重要なことになりはしないと断言するのではないのでしょうか。本ゼミナールでは、そのような場を提供したいと考えています。ひとりひとりがそれぞれの経験、知見を活かして乗り降り自由な討論に参加しましょう。

江戸時代の儒学者佐藤一斎は、「少にして学べば則ち壯にして為すこと有り」と述べて、「壯」における自らの像を想像し、そこで何を為すべきかを見据え、学ぶことによって生きる「学生」(がくしょう)の道を示しました。さあ、この道を一步一步登りましょう。

## ■ 医学部

# リハビリテーション実践

医学研究科

青山 朋樹 准教授【専門分野：リハビリテーション医学、整形外科学、再生医学】

## 1) リハビリテーションとは何か？

この問いに多くの方々は骨折治療で行われるギプス固定の時の松葉杖歩行の指導や、脳梗塞の後の麻痺の改善や食事の練習などをイメージされると思います。それらはリハビリテーションを行う中で重要な項目ではありますが、必ずしも、それが全てではありません。リハビリテーションの定義は「能力低下やその状態を改善し、障害者の社会的統合を達成するためのあらゆる手段」です。その語源は、ラテン語でre(再び)+ habilis(適した)であることから、広義には「権利の回復、復権」「犯罪者の社会復帰」「教会からの破門を取り消され、復権すること」なども含まれ、「適応」「自律」「貢献」「生きる」など人間社会における多くの課題を解決する手段にもなり得ます。それらの課題解決のためには医学だけでなく、運動学、人文学、工学の広い分野の知識と実践を必要とします。またリハビリテーションを実施する場所は病院に限定されず、家庭、学校、地域社会、職場など広い領域で実践されております。

## 2) 「病氣」とは？「健康」とは？「障害」とは？

そもそも「病氣」とは？「健康」とは？「障害」とは何でしょうか？これらは座学による学習だけではなかなか理解ができません。まず

は自分自身で体験し、考え、課題に直面し、その課題を解決することで、理解が可能になると思われま。本ゼミでは擬似障害モデルやその対処法の体験、実践を通してリハビリテーションを学ぶと共に、自分自身が社会参加することの意義や方法を考えることを目的としております。



## ■ 薬学部

# 薬と医療

薬学研究科

橋田 充 教授【専門分野：薬剤学】

西川 元也 准教授【専門分野：薬理学】

平澤 明 准教授【専門分野：ゲノム科学】

白川 久志 准教授【専門分野：薬理学】



薬学は、「くすり」に関する総合科学です。基本となる学問領域は、物理、化学、生物と多岐にわたりますが、これら領域の知識と経験を集結、統合して創られた医薬品が医療現場で使われています。くすりは体の中を動き、標的部位に到達し、そこで生体の

分子と相互作用することによって効果を発揮します。本ポケットゼミでは、実際の医療現場で使われるくすりについて、自らがそれを開発する立場から、また自分が患者として使う立場から考えることで、薬学という総合科学の一端に触れてほしいと考えています。授業は、SGD (small group discussion) という3～5人程度の少人数のグループを単位にした演習形式で進めます。教員を交えて学生同士で意見交換をしながら、くすりに関する理解を深めてもらいます。授業の最後には、SGDで話し合った内容をまとめてプレゼンテーションしてもらい機会も設けています。以下に取り上げる話題について紹介します。

## (1) 薬と製剤：医薬品開発における製剤化の目的とその効果

くすりは使いやすいように、錠剤やカプセル剤など医薬品「製剤」という形に仕上げられています。普段何気なく飲んでいくすりにも実はいろいろと工夫が施されています。薬学部にある模擬薬局で本物のくすりを使って代表的な製剤の表面や内部を観察して、製剤化の目的や技術について学んでもらいます。

## (2) ゲノム情報と薬：ゲノム情報とデータベースの利用

ヒトゲノム情報を理解し、効果的に利用することで、より効果が高く副作用の少ないくすりを開発することが可能になりつつあります。膨大なゲノム情報を取り扱うための基礎として、ゲノム情報、研究情報を取り扱うデータベースについてみなさん自身で調べ、結果を発表してもらいます。

## (3) 薬物治療と個人差：個別化医療の展望と課題

わたしたちはそれぞれが個性的な存在です。診断された病名が同じであつても、病状は一人一人違って、くすりの効果も同じとは限りません。近年の医療現場では、一人ひとりの患者さんに対して最適な治療を行う「個別化医療」が注目を集めています。個別化医療は、治療効果の増強、副作用の軽減などが期待される反面、いくつかの問題点も指摘されています。そこで個別化医療について討論し、皆さんが考えた成果を発表してもらいます。

## (4) 薬の作用機構：くすりと生体の相互作用をもとに考えるこれからの創薬

くすりをつくる時には設計図や道順を必ず考えますが、その通りに成功することよりも途中で方針が大きく変更されることのほうがこれまで多く見受けられました。本演習では、これまでに開発されたくすりの研究経緯を、その病気の成り立ちも含めて調べた上で分類し、くすりの作用機構に関する問題点も列挙して整理することで、これからの創薬の方向性について皆さんが考えたアイデアを発表してもらいます。



## 農学部

# 生命を操る時代

農学研究科

今井 裕 教授【専門分野: 生殖生物学】

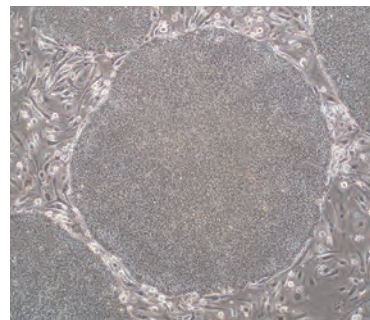
## 生命の誕生

生命の誕生は、2種類の配偶子つまり精子と卵子の出会いから始まる。海産動物では、海の中で放卵、放精が行われるために、生命の誕生を目で見ることができ。ところが、哺乳動物は体の中で受精が起こるため、その過程は神秘的に包まれている。17世紀末には、顕微鏡を使った生物学の研究が始まった。オランダの研究者ニコラス・ハルトソーケルは、この時代に精子を顕微鏡で観察し、その内部に小人がはいつていると思ひ込み、これこそが生命の種と考えた。その後も哺乳動物の生命の誕生は、常に生物学者の大きな興味の対象となってきた。20世紀になって、海産動物のウニを使って受精の研究が進むと、それに触発されて1950年代から哺乳動物の受精を体外で再現しようとする研究が行われるようになってきた。1959年には体外で受精させたウサギの卵子から子ウサギを誕生させている。さらに、1978年にはヒトの体外受精の成功例が報じられ、ルイズさんが生まれている。それ以降36年の間にヒトの体外受精技術は飛躍の進歩を遂げ、特に日本は世界的にも類を見ないほど体外受精が盛んに行われている国となっている。2012年には体外受精児の誕生総数は34万人を超え、年間約3万8千人が誕生している。世界で初めて体外受精を成功させたエドワード博士は、人類の福祉に大きな貢献をした業績によって2010年度のノーベル医学生理学賞が授与されている。

## 講義の到達点

哺乳動物で体外受精が可能になったことの意味は何であろうか。ヒトは通常いつ子供を授かるかに関して予見することはできない。しかし、

体外受精が可能になると、生命の誕生を予見することが可能になる。また、一旦始まった生命の進行を止めることもできる。また、顕微鏡の下で人間が卵子を操作することができるようになるので、健全な精子を作れない男性不妊患者の精子を一匹、ガラス製の鋭利なピペットでつまみ上げ、卵子の中に注入して受精させることもできる。顕微受精とよぶこの方法で、年間約5,000名の産児が誕生している。生命の源である精子も卵子は神のみが知るのではなく、人間が選択できることになる。似たような技術はすでに大きな発展を遂げている。受精卵の核の中に外部から別の遺伝子を導入する遺伝子組み換え技術。胚発生の途上にある胚の一部の細胞を取り出して、無限の細胞増殖を続けるES細胞株を樹立する。体細胞を未受精卵に導入してリプログラミングを誘導し、導入した体細胞と同じ遺伝情報をもつクローン個体を作り出す体細胞クローン技術。いずれの技術も社会生活に有用な効果をもたらす一方、生命を操作するという倫理的側面と直面している。本講義では、単に生命科学を知識として知るのではなく、その背景や技術のレベル、今後の展望などについて、自ら考え、情報を集めながら、生命を操作する技術に対する理解を深めることを目的としている。



▲ブタiPS細胞

